

第**82**期 中間報告書
2020年1月1日から2020年6月30日まで
キヤノン電子株式会社

証券コード：7739

ごあいさつ



株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第82期上半期（2020年1月1日から2020年6月30日まで）のご報告にあたり、ごあいさつ申し上げます。

代表取締役社長

酒 巻 久

はじめに、新型コロナウイルス感染症により闘病されているみなさまには心よりお見舞い申し上げます。

当上半期の世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により経済活動が抑制され、極めて厳しい状況となりました。日本経済も政府の緊急事態宣言等により経済活動の自粛が広く要請され、景気後退が続きました。

当社グループでも、新型コロナウイルス感染症の影響により部品納入の遅延や販売先の在庫調整の影響を受け、一部で生産が滞ったことから、当上半期の連結売上高は359億46百万円（前年同期比19.2%減）、連結経常利益は29億63百万円（前年同期比32.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は19億89百万円（前年同期比41.3%減）となりました。

当上半期はこのように非常に厳しい事業環境となりましたので、中間配当金につきましては前期実績から20円減額の1株当たり20円とし、お支払い開始日を8月27日とさせていただきます。

なお、宇宙関連分野におきましては、当社製の超小型人工衛星2号基「CE-SAT-IB（シーイー・

サット・ワンビー）」の軌道投入はロケットの不具合により叶いませんでした。3号基「CE-SAT-ⅡB（シーイー・サット・ツービー）」の打上げに向けて準備を進めています。また、運用開始から3年が経過した「CE-SAT-Ⅰ（シーイー・サット・ワン）」は現在も実証実験を順調に進めており、地上の高精細画像を日々撮影しております。今後の衛星本体、撮影画像、内製コンポーネントの外販等に向けて、事業化の準備を着実に進めております。

当社子会社のスペースワン株式会社では、和歌山県串本町で日本初の民間企業が所有するロケット打上げ射場の建設を進めており、2021年度中の小型ロケット打上げサービス開始を目指しております。

今後も新型コロナウイルス感染症の拡大やそれに伴う経済への影響は不透明で予断を許さない状況が続きますが、引き続き全社員の力を結集させ業績向上へ取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2020年8月

財務ハイライト（連結）

当上半期の概要

売上高 **359億46百万円** 前年同期比 19.2%減

営業利益 **28億82百万円** 前年同期比 36.6%減

経常利益 **29億63百万円** 前年同期比 32.4%減

親会社株主に帰属する
四半期純利益 **19億89百万円** 前年同期比 41.3%減

通期の見通し

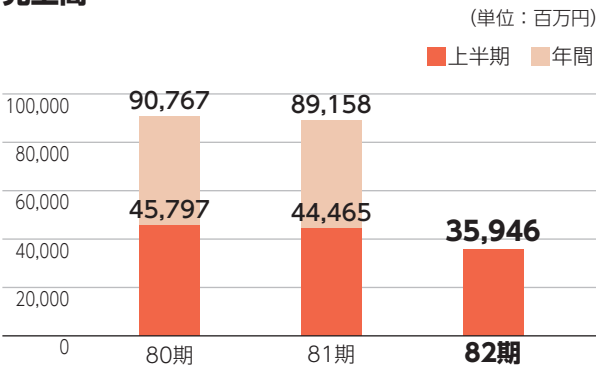
売上高 **753億円**

営業利益 **38億円**

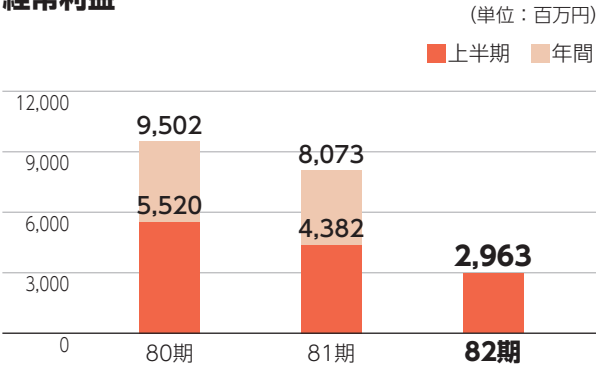
経常利益 **39億円**

親会社株主に帰属する
当期純利益 **28億50百万円**

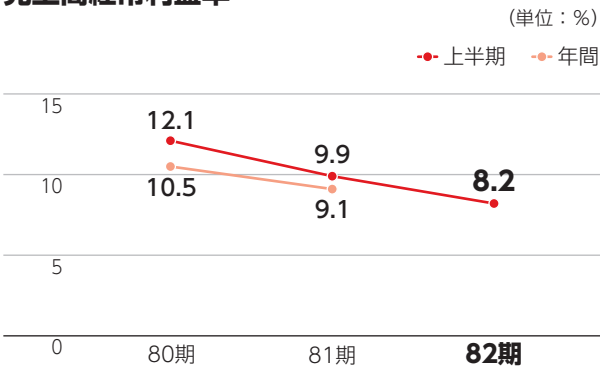
売上高



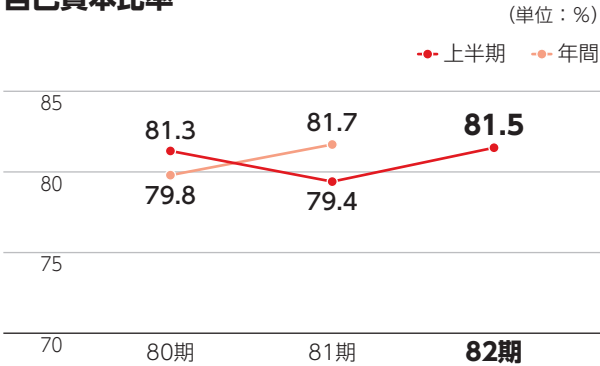
経常利益



売上高経常利益率



自己資本比率

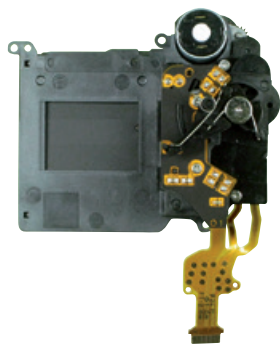


コンポーネント部門

主要製品

シャッターユニット、絞りユニット、磁気センサー、レーザースキャナーユニット、プリント基板実装

デジタルカメラ市場は、スマートフォンのカメラ機能の充実により厳しい状況が続いています。当期もシャッターユニット・絞りユニット等のカメラ部品について積極的に受注活動を展開しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大による部品納入の遅延や販売先の在庫調整により、売上は減少しました。

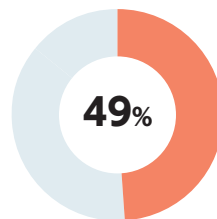


レンズ交換式デジタルカメラ用
シャッターユニット

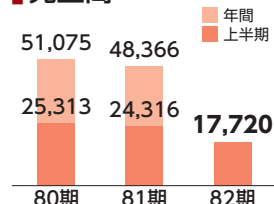
レーザープリンター・複合機向けのレーザースキャナーユニットは、米国・中国間の貿易摩擦を巡る緊張等の影響により全世界的に厳しい販売状況が続いたほか、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で販売先が一部操業停止となったことにより、売上は減少しました。

なお、ベトナム子会社において生産を行っている複合機向けのリーダーユニットにつきましても、減産により売上が減少しました。

これらの結果、当部門の連結売上高は177億20百万円（前年同期比27.1%減）となりました。

部門別
売上高
構成比

売上高 (単位: 百万円)



電子情報機器部門

主要製品

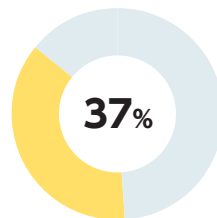
ドキュメントスキャナー、ハンディターミナル、レーザープリンター



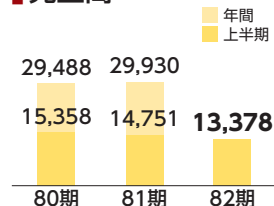
無線/有線LAN対応でPCLスキャンやグループでの共有が可能な、ネットワーク対応ドキュメントスキャナー「DR-S150」

スキャナー製品関係は、昨年下半年に販売を開始したドキュメントスキャナー「DR-S150」などの拡販に努め、米国や日本国内での売上が前年を上回りましたが、新型コロナウイルス感染症に対し厳しい感染拡大防止策が実施された欧州や中国、インドでの販売が低迷し、全体の売上は減少しました。

ハンディターミナル関係は、ハンディターミナル本体の売上は前年を上回りましたが、モバ

部門別
売上高
構成比

売上高 (単位: 百万円)



イル決済端末等の販売が前年を上回ることができず、全体の売上は減少しました。なお、下半期発売予定の新製品として、モバイルプリンター「BP-F400」とスキャナー体型の小型ハンディターミナル「PRea ST-150」を発表し、発売に向けて準備を進めています。

レーザープリンター関係は、他社製品の受託生産を新たに複数進めていますが、新型コロナウイルス感染症の拡大による部品納入の遅延により一部機種で生産が滞り、売上は減少しました。

これらの結果、当部門の連結売上高は133億78百万円（前年同期比9.3%減）となりました。

9月発売を予定している
スキャナー体型の
小型ハンディターミナル
「PRea ST-150」



その他の部門

業務分析サービス、情報セキュリティ対策サービス、名刺管理サービス、顧客情報管理サービス、システム開発・保守・運用、FA機器、環境関連機器、小型電動射出成形機、小型三次元加工機、薬剤分包機、滅菌機、血圧計

情報関連事業は、情報セキュリティ対策ソフト「SML」、学校向け教務管理システム「SCHOOL AID（スクールエイド）」、顧客情報管理システム（CRM）等の受注活動を積極的に展開しましたが、売上は減少しました。

環境機器事業は、「2019年度グッドデザイン・ベスト100」を受賞した歯科用ミリングマシン「MD-500」を1月に発売し、販売は堅調に進んでおりますが、小型電動射出成形機・業務用生ごみ処理機の販売が昨年を下回り、売上は減少しました。

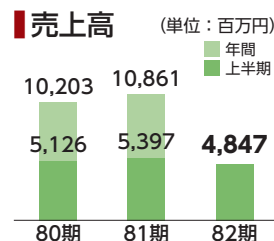
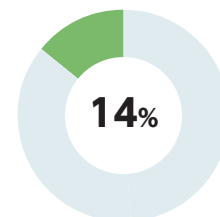


「2019年度グッドデザイン・ベスト100」
を受賞した歯科用ミリングマシン
「MD-500」

医療関連機器は、薬剤分包機の売上が前年を下回り、売上は減少しました。

これらの結果、当部門の連結売上高は48億47百万円（前年同期比10.2%減）となりました。

部門別
売上高
構成比



SCHOOL AID

SML
SECURITY MANAGEMENT WITH LOGGING

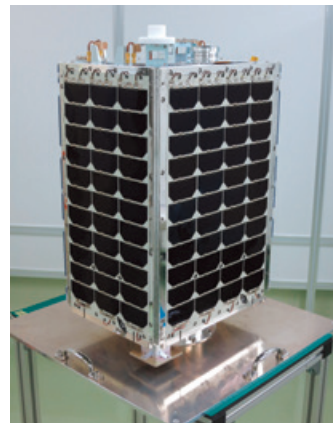
宇宙関連分野 トピックス

次の当社製人工衛星打上げに向けて準備を進めています！

現在、次の人工衛星である超小型人工衛星3号基「CE-SAT-II B（シーイー・サット・ツービー）」の打上げに向けて準備を進めています。

「CE-SAT-II B」は大きさ29.2×39.2×67.3cm、質量35.5kgの超小型人工衛星で、2017年6月から運用中の「CE-SAT-I（シーイー・サット・ワン）」より多くの部品を内製化しました。また、新たに開発した超高感度カメラで、夜間に船舶や山奥の建物などを撮影する性能を試します。他にも、キャノン製のミラーレスカメラ・コンパクトデジタルカメラを搭載し、「CE-SAT-I」に搭載している望遠鏡とあわせて望遠鏡のシリーズ化を目指しています。

なお、7月5日には、超小型人工衛星2号基「CE-SAT-IB（シーイー・サット・ワンビー）」が、米ロケットラボ社のロケット「エレクトロン」に搭載され、ニュージーランドの発射場から打ち上げられましたが、ロケットの不具合のため軌道投入は叶いませんでした。



打上げに向けて準備を進めている当社製の超小型人工衛星3号基「CE-SAT-II B」

「CE-SAT-I」は今も高精細画像を撮影し続けています！

打上げから3年が経過した「CE-SAT-I」は、今も順調に実証実験を継続しており、1mの地上分解能を持つメインカメラと、より広い範囲を写真に収めることができるサブカメラにより、合計25,000点もの高精細画像の撮影に成功しております。

7月16日には、本報告書表紙にも掲載しているネオワイズ彗星（C/2020 F3）の撮影にも成功しました。ネオワイズ彗星は今年発見された彗星で、7月4日に太陽に最も接近しました。明るさは撮影当時で約2等級と明るく、地上からも観測できましたが、大気の影響のない宇宙空間から撮影することにより、尾を引く彗星の美しい姿を捉えることができました。



写真：ネオワイズ彗星（C/2020 F3）（7月16日、「CE-SAT-I」のメインカメラで撮影）

引き続き、キャノン電子グループの宇宙事業への取り組みにご期待ください。

人工衛星、宇宙事業に関するお問い合わせは、以下までご連絡ください。
電話番号：03-6910-1105 E-mail：ssl@canon-elec.co.jp

会社の概況 (2020年6月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	42,206,540株
株主数	14,940名

従業員の状況

連結	
使用人数	前期末比増減
5,602名	+188名
単独	
使用人数	前期末比増減
1,955名	+20名

大株主 (10名)

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
キャノン株式会社	22,500	55.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,344	3.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	785	1.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	591	1.4
第一生命保険株式会社	414	1.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	376	0.9
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン 140042	330	0.8
ジェーピー モルガン チェース バンク 385781	285	0.6
SMBC日興証券株式会社	281	0.6
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/ABERDEEN STANDARD SICAV I CLIENT ASSETS	275	0.6

注. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式 (1,356,269株) を控除して算出しております。

取締役および監査役

地位	氏名
代表取締役社長	酒 巻 久
代表取締役副社長	橋 元 健
専務取締役	石 塚 巧
常務取締役	新 井 忠
常務取締役	周 耀 民
常務取締役	内 山 毅
常務取締役	高 橋 純 一
常務取締役	植 竹 利 雄
取締役	勅使河原 隆 行
取締役 (社外)	豊 田 正 和
取締役 (社外)	内 海 勝 彦
取締役 (社外)	戸 莉 利 和
常勤監査役	林 潤 一 郎
監査役 (社外)	岩 村 修 二
監査役 (社外)	中 田 清 穂

株式のご案内

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月
上記基準日	12月31日
中間配当基準日	6月30日
期末配当基準日	12月31日
株主名簿管理人 および 特別口座 口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株式事務のお問合せ先	住所変更、単元未満株式の買取・買増、 配当金の振込指定等のお手続きは、株主 様が口座を開設されている証券会社等 にお問合せください。 未払い配当金のお支払い手続き、または 特別口座に記録された株式に関するお手 続きは、下記みずほ信託銀行にお問合せ ください。 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 (https://www.canon-elec.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由に よって電子公告による公告をすることが できない場合は、日本経済新聞に掲載い たします。
上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部
証券コード	7739

Canon キヤノン電子株式会社

本 社
〒369-1892 埼玉県秩父市下影森1248番地
電話 0494-23-3111

東京本社
〒105-0011 東京都港区芝公園三丁目5番10号
電話 03-6910-4111

インターネットホームページ
<https://www.canon-elec.co.jp/>